

# IV

博士後期課程世界文化遺産学専攻

## 履修・授業科目の概要

# 1. 履修方法

人間総合科学研究科 世界文化遺産学専攻（博士後期課程）

## 【履修方法・修了要件】

科目区分	科目群	条件又は科目名等	修得単位数
専門科目		各自の専門領域の特別研究	3
		修了単位数	3

- ・上表に基づき 3 単位以上を修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。
- ・必要に応じて、指導教員と副指導教員が指定する科目等（本専攻又は他研究科・他専攻、学群の授業科目）を履修すること。

# 2. 履修申請の注意事項

- ・履修申請は申請期間中に TWINS を利用して行ってください。
  - ・集中講義のうち実施予定日、講師名が未定の講義は KdB に表示されないことがあります。実施予定日、講師名が発表された時点で、改めて申請期間が設定されますので、告知された登録期間中に申請を行ってください。期間中に登録できなかった場合は下記の追加履修届を提出の上、履修してください。
- ※履修申請を忘れた場合は TWINS から追加履修申請書を出し、体育芸術エリア支援室の大学院教務担当まで提出してください。追加履修申請書には授業担当教員、指導教員、専攻長の 3 名の署名捺印が必要となりますので注意してください。

---

# 文化遺産原論特別研究

Advanced Research in Philosophical and Ideological Studies of Cultural Heritage

---

記念物一般と世界遺産に関する思想史的調査を通じて、これらの思想の哲学的美学的基盤について考察し、研究者に必要な専門的知識の育成を行う。

■担当教員	専攻専任教員	■担当教員所属	世界文化遺産学 専攻専任
■単位	3単位	■実施学期・曜日・時限	通年随時
■教室	—	■標準履修年次	1～3年次
■履修条件	—	■評価方法	—
■参考資料	—		
■講義形式	その他		
■教育目標	記念物一般と世界遺産に関する思想史的調査を通じて、これらの思想の哲学的美学的基盤について考察し、研究者に必要な専門的知識の育成を行う。		
■到達目標	記念物一般と世界遺産に関する思想を哲学的美学的に考察する研究者として必要な能力の習得。		
■キーワード	—		

---

# Advanced Research in Cultural Heritage Theory and Policy Studies

(文化遺産保護特別研究)

---

Through seminars and research on international comparative studies on theories and policies for cultural heritage protection, this Doctoral research program aims at developing the knowledge required for advanced researchers in the field.

■担当教員	稲葉信子	■担当教員所属	世界文化遺産学 専攻専任
■単位	3 単位	■実施学期・曜日・時限	通年随時
■教室		■標準履修年次	1～3 年次
■履修条件	—	■評価方法	
■参考資料	—		
■講義形式			
■教育目標	—		
■到達目標	—		
■キーワード	—		

# 文化観光特別研究

Advanced Research in Cultural Tourism

自然遺産・文化遺産およびその周辺環境を対象とした、資源化および利活用方策について、現地調査および文献調査に基づいた分析の指導および演習を行う。

■担当教員	伊藤 弘	■担当教員所属	世界文化遺産学 専攻専任
■単位	3 単位	■実施学期・曜日・時限	通年随時
■教室	—	■標準履修年次	1～3 年次
■履修条件	—	■評価方法	—
■参考資料	—		
■講義形式	その他		
■教育目標	研究指導や現地での演習を通して研究遂行能力を身につける。		
■到達目標	課題抽出、研究の目的および方法の設定 資源活用計画の立案		
■キーワード	観光、資源、計画論		

## ■授業外における学習方法

積極的にフィールドに出かけ、体験したことを自分なりに理解する。

## ■受講生に望むこと

- ・フィールドでは、批判的な態度でものごとをみてること。
- ・関連する文献は取捨選択する前にとりあえず色々と読み、自分なりに理解してみる。

# 遺産整備計画特別研究

Advanced Research in Project Management of Heritage Sites

本授業は、遺産整備計画に関する研究について論じ、最新の研究論文の理解、研究の体系的  
位置づけ、研究目的の妥当性と方法論の構築、調査によるデータ収集と分析を通して、研究  
の実施・遂行能力を養成する。

■担当教員	上北恭史	■担当教員所属	世界文化遺産学 専攻専任
■単位	3単位	■実施学期・曜日・時限	通年随時
■教室	—	■標準履修年次	1～3年次
■履修条件	—	■評価方法	授業への参加と学会発表
■参考資料	—		
■講義形式	その他		
■教育目標	研究指導、ケーススタディをとおして博士研究の遂行能力をつける。		
■到達目標	授業はゼミ形式で行い、研究の問題点について議論を行う。既存研究の位置づけと方法論の理解、研究目的を実現するための手法構築、フィールドからのデータ採取と分析、を通して、研究論文の作成を行う。		
■キーワード	遺産整備計画、建造物遺産の保存、歴史的地区、遺産の防災、遺産活用、地域再生		

## ■授業計画

回	担当教員	授業内容
不定期	上北恭史	本授業で議論するテーマは次にあげられる。「国際協力における歴史的地区の保存」、「歴史的建造物の防災」、「サイトミュージアム論」、「住民主導型遺跡保護手法」、「民族と歴史的地区の保存」など。

## ■授業外における学習方法

受講者の研究テーマに沿って資料収集を実施する。

## ■受講生に望むこと

専門家として遺産保護、保護制度枠組み、修理と整備手法、住民参加による遺産保護事例について、最新の事例を把握しておく必要がある。

---

# 文化的景観特別研究

Advanced Research in Cultural Landscape

---

文化的景観を対象に、フィールドワークによる事例の探求と、文献資料による概念の考究を同時にすすめ、調査分析および論文執筆に関する指導助言を行う。

■担当教員	黒田乃生	■担当教員所属	世界文化遺産学 専攻専任
■単位	3単位	■実施学期・曜日・時限	通年随時
■教室	—	■標準履修年次	1～3年次
■履修条件	—	■評価方法	—
■参考資料	—		
■講義形式	その他		
■教育目標	文化的景観を対象に、フィールドワークによる事例の探求と、文献資料による概念の考究を同時にすすめ、調査分析および論文執筆に関する指導助言を行う。		
■到達目標	学会論文(審査付き)および学会発表		
■キーワード	—		

# 文化遺産建築特別研究

Advanced Research in Architectural Heritage

日本やアジアを中心とした建築・都市遺産に関する建築史、修復史に関する事例研究を講述し、建築を対象とした遺産保護の理念的展開について論ずる。特定課題を設定し、研究者としての能力の養成を行う。

■担当教員	専攻専任教員	■担当教員所属	世界文化遺産学 専攻専任
■単位	3単位	■実施学期・曜日・時限	通年随時
■教室	—	■標準履修年次	1～3年次
■履修条件	—	■評価方法	—
■参考資料	—		
■講義形式	その他		
■教育目標	日本やアジアを中心とした建築・都市遺産に関する建築史・修復史に関する事例研究を講述し、建築を対象とした遺産保護の理念的展開について論ずる。特定課題を設定し、研究者としての能力の養成を行う。 対象とする歴史的建築・都市を取り巻く様々な研究領域を総合的に考察することに加え、現在に対して意義ある提案がされるべきものとする。		
■到達目標	文化遺産の保存や活用を必要としている実対象において、課題を自らが発見し、その問題に対して積極的にアプローチして、個別なケースに適した実践的な解法を構築する。また、そうした解法が有する普遍的な方法論や理論を引き出すことを目標とする。		
■キーワード	—		

---

# 文化遺産美術特別研究

Advanced Research Cultural Heritage of Art

---

本授業では、敦煌莫高窟や龍門石窟など世界遺産に登録されている遺跡のみならず、東洋の仏教関連遺跡を取上げ、それらが有する価値について評価することを目的とする。

■担当教員	八木春生	■担当教員所属	世界文化遺産学 専攻専任
■単位	3単位	■実施学期・曜日・時限	通年随時
■教室		■標準履修年次	1～3年次
■履修条件	—	■評価方法	レポート
■参考資料	—		
■講義形式	その他		
■教育目標	本授業では、敦煌莫高窟や龍門石窟など世界遺産に登録されている遺跡のみならず、東洋の仏教関連遺跡を取り上げ、それらが有する価値について評価することを目的とする。		
■到達目標	博士号を取得できるレベルの学力を有し、学会で発表し、論文を専門誌に発表をできるようにする。		
■キーワード	中国仏教美術		

---

# 保存修復科学特別研究

Advanced Research Conservation Science

---

各種の文化遺産や博物館資料等に対し、自然科学的手法や歴史的伝統技術、材料を用いて劣化防止および保存処理を実施する技術の開発、適用、評価・検証について指導、演習を行なう。

■担当教員	松井敏也	■担当教員所属	世界文化遺産学 専攻専任
■単位	3単位	■実施学期・曜日・時限	通年随時
■教室	—	■標準履修年次	1～3年次
■履修条件	—	■評価方法	—
■参考資料	—		
■講義形式	その他		
■教育目標	—		
■到達目標	—		
■キーワード	—		

# 自然保護特別研究

Advanced Research in Natural Heritage Theory and Policy Studies

自然保護と生物多様性保全に関する研究、とりわけ保護地区(世界自然遺産・ユネスコエコパーク)、野生生物保護(希少種保全・外来種問題)、環境アセスメント(生物多様性・自然とのふれあい)等における事例研究を通じて、世界自然遺産の保全と管理のあり方を考究する。

■担当教員	吉田正人	■担当教員所属	世界文化遺産学 専攻専任
■単位	3単位	■実施学期・曜日・時限	通年随時
■教室		■標準履修年次	1～3年次
■履修条件	—	■評価方法	随時、レポート、中間報告等を提出してもらい評価する。
■参考資料	—		
■講義形式	その他		
■教育目標	自然保護、生物多様性保全に関わるさまざまな政策に関して、保護地域、種の保存と外来種対策、自然再生、環境影響評価、環境倫理、環境教育など特定の課題を選び、国内外の最新の動向を研究を通じて、自然遺産保護の保全に携わる高度な専門性を有した研究者、政策立案者としての能力を育成する。		
■到達目標	・自然保護、生物多様性保全に関わる特定課題の選択とその最新動向の把握 ・上記にかかわる現代的な課題の抽出とその解決策の提案		
■キーワード	自然保護、生物多様性、保護地域、種の保存、外来種対策、自然再生、環境影響評価、環境倫理、環境教育		

## ■授業計画

履修者の選択したテーマに応じて、随時、不定期に実施する。

## ■授業外における学習方法

最新動向の把握にあたっては、文献研究のみならず、研究発表会、シンポジウム等に参加し、常に最新情報を収集するよう努めること。

## ■受講生に望むこと

履修者のテーマに応じて、既往研究、関連研究については十分な研究をした上で、独自の研究アプローチを検討するよう努めること。